

小学校教師向け広報活動

～東京都/福岡市社会科研究会による海運関連施設の見学会について～

日本船主協会は、海運の重要性について広く理解いただくため、様々な広報活動を行っている。特に教師/児童など学校関係者向けには積極的かつ地道に業界のPRを継続していく必要があり、この一環として、小学校教師で構成される社会科研究会(副教材の作成等を行っている会)を対象に、関連団体等とも連携し海運関連施設の見学会等を実施している。

2011年度は昨年度に引き続き、7/8月の夏休み期間に東京都/福岡市の同研究会見学会として実施し、東京都は56名、福岡市は36名の小学校の教師が参加した。

それぞれの見学会概要は以下の通り。

【東京都：2011年7月29日(金)】

石油連盟との共催で、東京都小学校社会科研究会の教師を対象に実施。

- ① 東亜石油 京浜製油所(川崎)から石油精製に関する講演。その後、同製油所内施設を見学
- ② マリーナシャトルに乗船し、横浜港内を見学
- ③ 日本郵船歴史博物館内で日本船長協会 小島茂会長による講話。その後、博物館内を見学

【福岡市：2011年8月24日(水)】

国土交通省九州運輸局/九州地方海運組合連合会/博多港振興協会の協力を得て、福岡市小学校社会科研究会の教師を対象に実施。

- ① バス車中から博多港各埠頭を見学(ポートガイドによる説明)
- ② 博多港香椎コンテナターミナルを見学
- ③ 福岡市営渡船「きんいん」に乗船し、海上から博多港を見学
- ④ 九州運輸局/日本船主協会海務部(労政担当)による講演
- ⑤ 博多港ベイサイドミュージアム/博多ポートタワーからの博多港見学

両見学会では、日常生活に必要な物資やエネルギーの資源等わが国の貿易物資の99.7%が海上輸送に依存している等海運の役割、最近メディアでも取り上げられている海賊問題の現状や、船員(海技者)という職業の魅力等について日本船主協会から説明を行った。

また、東京都の見学会では、小島船長協会会長より海運全般から海上勤務の醍醐味や苦労話等多岐にわたる講話が行われ、さらに日本郵船歴史博物館 赤嶺正治館長代理からも海運の歴史を辿りながらの興味深いお話が紹介される等ご協力いただいた。

参加した教師からは、

- 普段入ることができないコンテナターミナルなど港湾施設を見学でき勉強になった。
- 身近にある港のことが理解でき、日本の海運の現状やその重要性が良くわかった。
- 実際に働いている人から直接お話を聞けることは有意義である。
- 見学会を機会にあまり認知されていない海運業界について注目していきたい。
- 体験教室(例：海運教室)のような企画を提案。

など、貴重な意見が両見学会で実施したアンケートに寄せられた。

本見学会を通じ、できる限り多くの小学校教師が海運業界に関心を持っていただき、授業の中で海運の役割について児童と一緒に認識していただくことを期待するとともに、上記アンケート結果等も踏まえつつ今後も日本船主協会広報活動を続けていきたいと考えている。

東京都社会科研究会見学会(川崎・横浜港)



石油製品出荷の様子（東亜石油 京浜製油所）



日本船長協会小島会長講話（日本郵船歴史博物館）

福岡市社会科研究会見学会(博多港)



博多港香椎コンテナターミナル（ガイドにより説明）



九州運輸局による講演

以上